

食を中心にした、地域コミュニケーション

篠栗地区活動報告資料



特定非営利活動法人
フードバンク福岡



特定非営利活動法人
地域コミュニティセンター

こころん

篠栗町は福岡市の中心から車や電車で 20 分という便利な場所にあり、総面積の 7 割が山林という自然豊かな町です。また住民の多くの方が、地域でのサポート体制が必要と考え、活動に参加している地域でもあります。

2021 年 4 月より、特定非営利活動法人フードバンク福岡と特定非営利活動法人地域コミュニティセンターころん(以下、ころん)が中心となり、食を中心とした地域コミュニケーションモデル(運用ルール作りを含む)の作成を目的として、篠栗地区でのネットワークの構築と、地域の状況調査や取り組み状況の把握をおこない、必要な方への食品提供を行うこととあわせ、支援が必要な方の見守りネットワークづくりをすすめてきました。さらに、この取り組みを定型化することで、他の地区への取り組みへと進めることも検討いたしました。

今回、これまでの活動の経過をまとめるとともに、今後の活動への指針とするために、この報告書を作成いたしました。



目 次

NPO 法人こころんについて	3
活動内容	3
【おひさま食堂】	3
【フードパントリー】	4
【個別対応フードサポート】	5
インフラの整備	6
こころん地域情報分析結果	7
■こころんとの関わり	7
■世帯人数	8
地域情報分析とアンケート実施	9
■年代別制度利用世帯	9
■こころん利用者	
「おうちにあるとうれしいな」 食品調査	10
分かった事、現状	11
これまでのつながり・連携・現状	12
今後の課題ややりたいこと	13

NPO 法人こころんについて

- ・「地域コミュニティセンターこころん」は介護予防・生活支援総合事業を担う場所として2016年(平成28年)にスタートしました。
- ・一軒家を借り、毎日開いているカフェ・よろず相談・子どもから大人まで来られる「おひさま食堂」・各種サークルをおこなってきました。スタッフは現役を引退され、昔取った杵柄をフル活用し、子どもからお年寄りまで支えていただくボランティアさんです。

活 動 内 容

【おひさま食堂】

●開催頻度・時間

2017 (H29) 年 10 月より

第2・4金曜日 16:00～18:00 開催

●対象者

赤ちゃんからお年寄りまでの多世代を対象

●運営内容

地域のボランティアさんによる準備・調理・片づけ・当日運営を行います。



コメント

- ・みんなで食べることの楽しさを共有できる。(孤食を防ぐ・嫌いなものでも不思議と食べられる・マナーについて教えてもらう、学ぶ・おばあちゃんの味)
- ・学校でけんかした友達ともバツタリ食堂で会って仲直りできた小学生。
- ・これまでの活動の中で楽しむこと・助け合うことにおいて「お互いさま」の広がりが見え、様々な世代の人たちが交流できる場として少しずつ知られるようになった。



【フードパントリー】

●開催頻度・時間

2020（R3）年6月より

第2・4金曜日 16：00～18：00開催

●対象者

赤ちゃんからお年寄りまでの多世代を対象

●運営内容

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、室内での密を避け、調理・飲食による感染リスクを減らすために、食事提供から食品提供へ変更しました。状況に応じて軽食を提供し、屋外で食べて頂くことにしています。



コメント

- ・コロナ禍、「外出が出来なくて苦しい子どもたちや高齢者」「仕事がなくなって、行き詰まっているという家庭」金銭的・精神的に困っている方が増えた様に感じている。
- ・食品だけではなく、洋服や本・雑貨などの寄付も増え、循環するようになってきた。
- ・食品提供の際、調理の可否、アレルギー等で持ち帰っても無駄になりそうな場合は、その場で申し出て頂き、他のものと替えるなどして対応している。

これまでの実績（延べ人数） ※食堂・フードパントリー合わせて

2017年（10月～）：428名 2018年：1527名 2019年：2131名

2020年：1073名 2021年：1607名

活動内容

【個別対応フードサポート】

- 実施開始日

2020年3月より

- 訪問回数

月に1回から2回 相談があった場合は適宜。

- 対象者

高齢者独居・生活困窮者・多子世帯・ひとり親子育て世帯 等

- 実績

108世帯

- 運営内容

地域のボランティアさん約10名が手分けして訪問し、食料を届けたり話を聞いたり、安否確認しています。



コメント

- ・コロナ禍において、生活様式や環境が大きく変わり、地域の福祉協力員さんや障がい・介護福祉事業所、行政等から「仕事なくなり、収入がなく食べ物がない」「家族全員罹患し、買物に出られない」家庭がある等の相談が寄せられるようになり、取り組みをはじめました。
- ・緊急性の度合いや支援の有無（移動困難・障がい・認知等）、サポートの頻度、世帯構成について各世帯でそれぞれ状況が異なります。

インフラの整備

- ・ 現在、食品提供の施設として活動している福岡県篠栗町尾仲の家屋に、
令和3年7月 倉庫（8坪）を設置
令和3年5月 冷凍庫を設置
令和3年1月 食品引取りの車両を購入
- ・ 搬入しやすいようにカーポートや周辺の環境整備を実施しました。
- ・ パソコン・プリンター等の通信機器を導入しました。



こころん地域情報分析結果

2021 年半年間（コロナ期間）にこころんに関わった方をリストアップし、その方々の傾向を分析しました。

■こころんとの関わり

世帯数：143 世帯

尾仲地区世帯の 5.8% を占める〈平性 29 年度調査〉

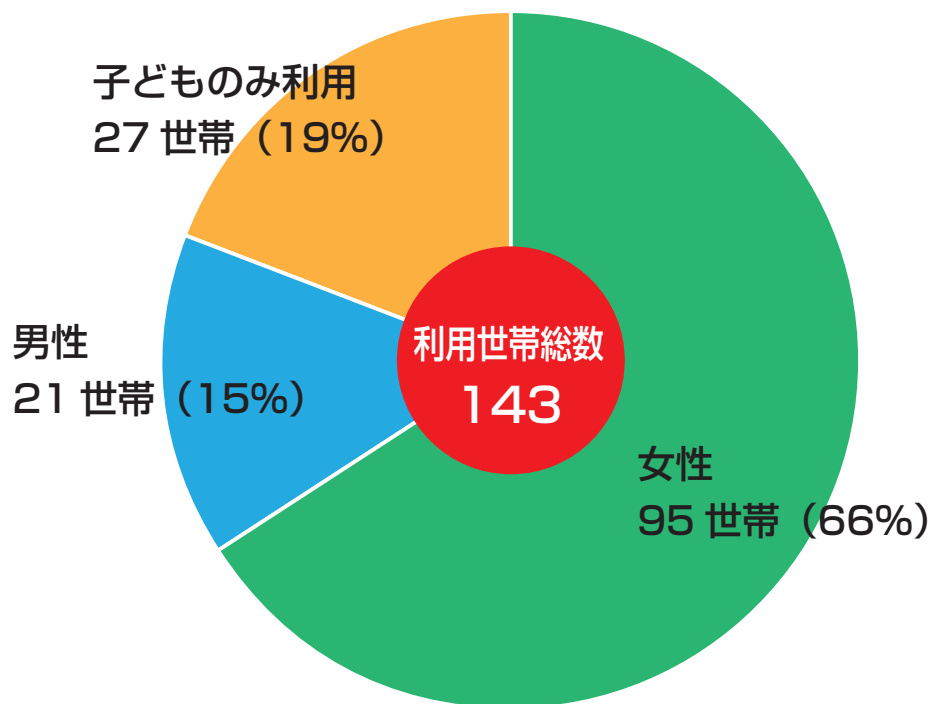
▶こころんに関わっている人（世帯の代表者）

成人女性 95 世帯（66%）

成人男性 21 世帯（15%）

子どものみ利用 27 世帯（19%）

こころんに関わっている人【性別比】

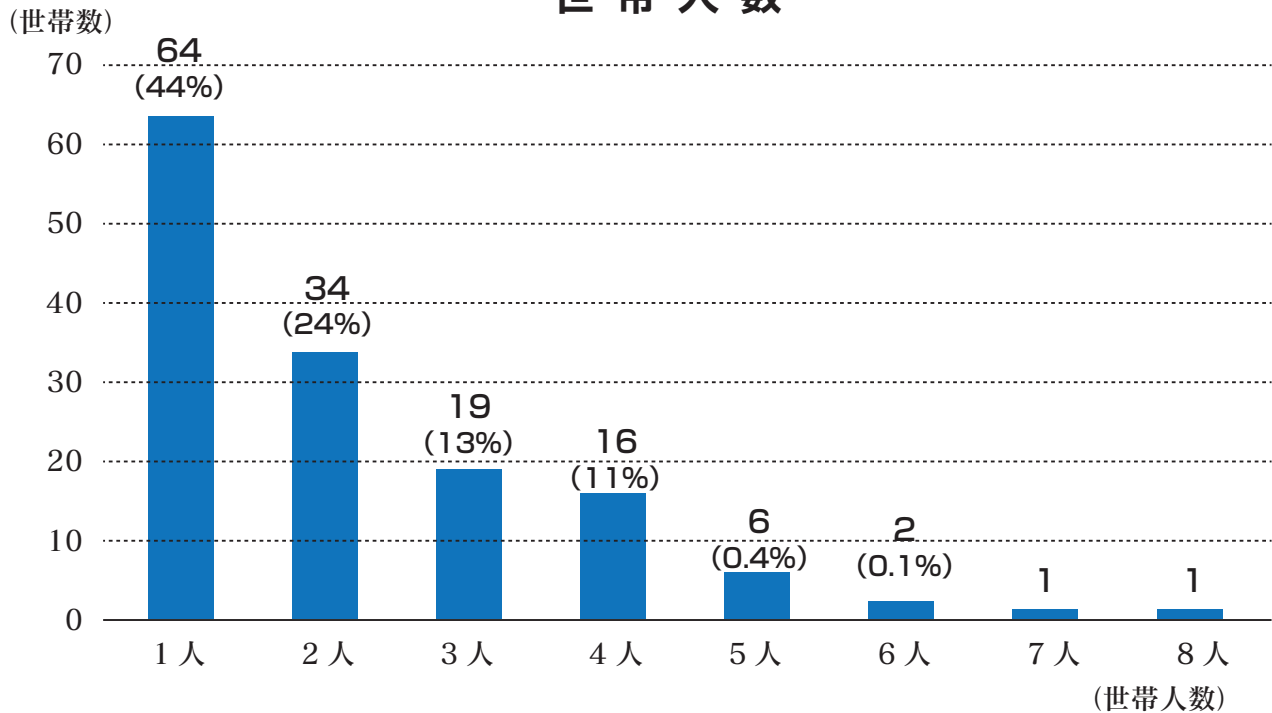


篠栗町人口：31,348 人 〈令和 3 年 11 月末現在〉

篠栗町世帯数：13,646 世帯 〈令和 3 年 11 月末現在〉

尾仲地区世帯数：1,883 世帯 〈平成 29 年 4 月末現在〉

世帯人数



■困りごと

こころんスタッフが話をする中で、以下のそれぞれを認識確認したもの（重複世帯あり）。

- ・経済（経済的に困っているという発言または事象）：14 世帯
- ・移動（買物や病院などへの移動手段がない状態）：2 世帯
- ・認知（認知障害はないが、自分の生年月日が言えないなど記憶の曖昧さを確認したもの）：5 世帯

メモ

糟屋郡保護率：1.78%

糟屋郡生活保護世帯数：2,746 世帯

こころんに関わっている世帯の保護率：4.12% 〈令和3年12月24日現在〉

地域情報分析とアンケート実施

食品提供を行っている方達の状況把握と今後の運営の参考にするためにアンケート調査を実施しました。

■年代別制度利用世帯

制度利用とは、生活保護・障害福祉サービス・デイケア・デイサービスのこととする（重複世帯あり）

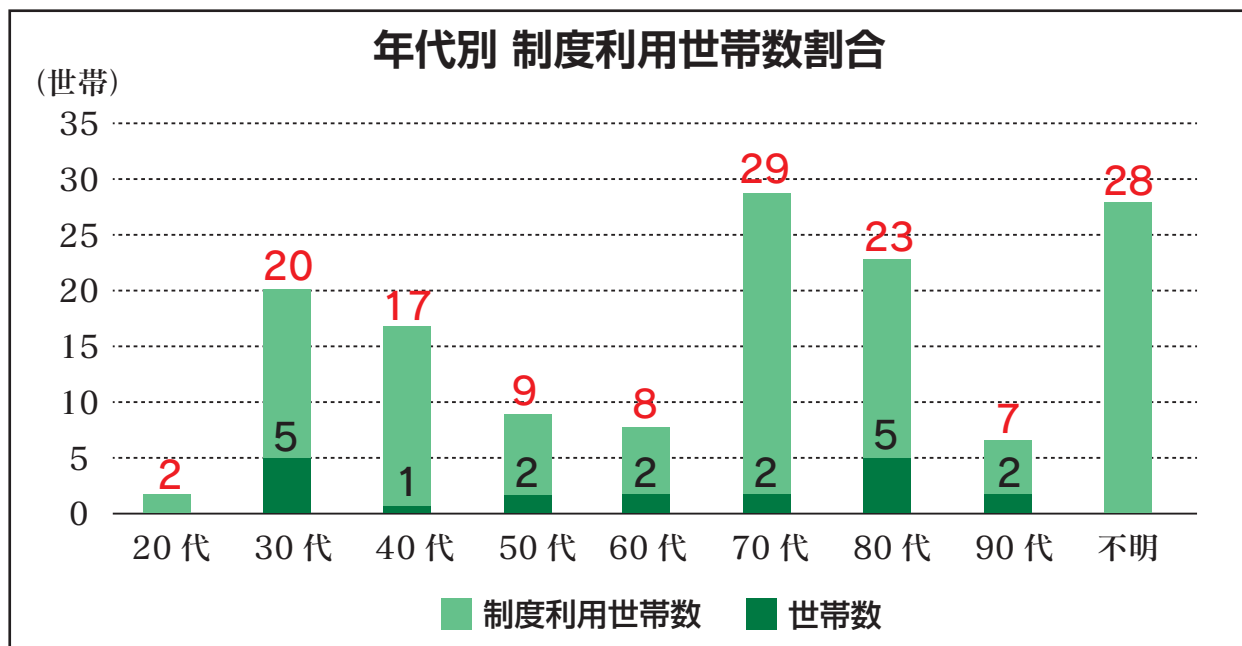
- ・ 70代 : 29世帯（20%）
- ・ 80代 : 23世帯（16%）
- ・ 30代 : 20世帯（14%）

30代世帯の内、5世帯が制度を利用している。また、世帯内の成人は本人のみ、障害があり、かつ生活保護を受けているなどの複合要因がある。

- ・ 生活保護受給 : 6世帯（4.1%）
 - 内、5世帯は本人もしくは家族に障害あり
 - 内、3世帯は一人暮らし
 - 内、1世帯はひとり親多子世帯（子ども7人）
- ・ 障害のある世帯 : 16世帯（11.1%）
 - 内、障害福祉サービス利用 : 8世帯（5.5%）

サービス利用なし障害 : 8世帯

- ・ デイケア・デイサービス利用 : 10世帯



コメント

- ・ 尾仲地区単体で見た場合、「こころん」が担っている割合は5.8%を超えており、地域の縮図と見ることができます。行政等連携機関に情報共有し、連携の手順や緊急時の対応方法まで早期に確立することで、住民の暮らしのセーフティネットとしての役割を担うことができると考えます。
- ・ 篠栗町が2021年度11月に「げんきもん調査」を実施しており、その結果(未発表)から比較、参考にできることもあるかもしれません。

■こころん利用者「おうちにあるとうれしいな」食品調査

調査方法

2021年11月12日のフードパントリー来訪者に対し、一人2枚ずつシールをお渡しし、食品項目が書かれたボードにシールを貼っていただき調査を実施した。

調査結果

- ・子どもの希望はお菓子、飲み物に続きお米が第三位に入った。日々の食事の必要性を子どもも感じていることがうかがえる。
- ・大人は野菜、レトルトと並び、調味料が同率二位。オイスターソースなど比較的価格の高い調味料を希望する声もあった。

「おうちにあるとうれしいな」調査結果

(単位：票)

	お米	野菜	レトルト	お菓子	調味料	カップ麺	飲み物
大人	10	7	7	2	7	4	3
子ども	9	3	3	19	1	6	13

※子どもは主に小学生（低学年から高学年まで）が協力

飲み物の希望：みかんジュース、コーラ

お菓子の希望：じゃがりこ、クッキー、ケーキ（2票）

上記以外で希望するもの：カレー、オイスターソース、お菓子作りセット

食品以外で希望するもの：ゲーム（4票）、絵本、本、ラジコン、懐中電灯、

日用品（ティッシュ、洗剤など）



分かった事、現状

- ・尾仲地区に占めるところの利用状況としては、尾仲地区の世帯のうち 5.8% が何らかの形で関係を持っています。この数値は糟屋郡の保護率 1.78% に比較しても地域での浸透率が高いといえます。
- ・赤ちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで「誰でも食堂」として、多世代交流もできる場所づくりを行ってきました。現在まで、「孤立しないようにつながること、いざという時に SOS が言えるひとを作ること」を意識してきましたが、まずは知って頂き、継続して活動していく中で少しずつ関係性を築いているといえます。
- ・パントリー受付の際は、名前・年齢・地区・アレルギーの有無・写真撮影使用の許可を記入して頂くようにしています。それ以外の情報(困りごとや家庭環境など)については、コミュニケーションを重ねて得たものや、相談の際にわかったことなどがあります。
アンケートの「困りごと」「制度利用」の把握状況については、現時点ではっきり分かっている世帯のみの情報です。
- ・子どものみの利用も増えてきています。子どもたちの間での「口コミ」で広がっているようです。
- ・必要な食品の種類については、好き嫌いも含め個人間で差があると思われますが、総体的に大人は日常使うもの、子どもは調理なしでも食べられるもののニーズが高いと感じられます。



これまでのつながり・連携・現状

- ・核家族化が進み、共働きの保護者も少なくありません。自分たちの住む地域にどのような人々が住んでいて、どのような資源があるのか、なかなか情報を得にくい状況でもあります。実際に「子どもから聞いたが、そんな場所があるはずないと思って確認に来ました。」といわれたお母さんもいらっしゃいました。子ども同士のコミュニティがある一方で、居場所を失っている子どもがいることも事実です。
- ・ボランティアさんは、手分けして食料持ち帰り用の「新聞紙バック」を作ってくださっています。お手伝いが必要な際も「できる人が・できる時に・できる分だけ」として、きちんと役割分担ができています。
- ・フードバンク福岡をはじめ、篠栗町社会福祉協議会や近隣の企業、個人農家、お寺など少しずつではありますが、連携を深めていっています。
- ・一定量の食品の備蓄ができるようになったことで、必要な時に必要な分をお渡しすることが可能となりました。



今後の課題ややりたいこと

- ・調理の有無や必要な量・必要な食品の種類などについて、各世帯で異なるため臨機応変に食材のお渡しが必要な場合があります。そのような場合のためにも相互の情報共有が必要と考えます。
- ・世の中の状況もあり、これまで実施していた食堂の開催が難しくなったため、フードパントリーに活動内容を変えましたが、食を介してのサポートの仕方は様々であり、今後活動をどのような形で継続していくかの検討が必要と思われます。
- ・「歩いて行ける距離」「生活エリア」での拠点づくりを進めるために、篠栗町各地区ごとのネットワークの発掘とそれに連携することが必要です。
- ・地域の方々をよく知る福祉協力員や支援を行っている各事業所（子ども・障がい・高齢者）と、より連携を図っていくことで、さらに迅速で正確なサポートができるようになっていくと思われます。そのためには、受け渡しや個人情報取り扱い等に関するルール決めも必要になってきます。
- ・地域ネットワークづくりや上記の取り組みをすすめるうえでも、今後、行政や社会福祉協議会等の積極的な参加が必要になってきており、情報交換からはじめて、地域全体の取り組みとして進めて行く必要があります。



みんな嬉しいが わたしの嬉しい

地域の人たち みんなが集まれば
小さくても ほんの少しでも
みんなの知恵と力を持ちよれば
何かできてゆく 生活が豊かになる 便利になる
ほっとする 優しくなれる 笑顔になれる
生きがいが広がるわたしたちは
そんな場所づくりを目指しています

特定非営利活動法人 **こころん**
地域コミュニティセンター





独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



特定非営利活動法人
フードバンク福岡

〒814-0122 福岡市城南区友泉亭 1-21
TEL(092)710-3205 FAX(092)710-3206
E-mail:fbfukuoka@gmail.com

<https://www.fbfukuoka.net/>



特定非営利活動法人
地域コミュニティセンター **こころん**

〒811-2413 福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲 844-9
TEL 090-4343-5560
E-mail:cocoron-sasaguri@outlook.jp
<https://cocoron-sasaguri.org>